

滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会だより

発行/彦根市馬場一丁目1-1 滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会 発行責任者/戸田 茂
URL: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

目次	
経済学部の改革等の状況について . . . 1	国際交流 4
データサイエンス学部の実践的な教育、 特に工場見学について 2	ゼミナール紹介 5
学生活動 3	資格取得等報奨制度について 7
	報奨金給付者の声 8

経済学部の改革等の状況について



経済学部長 小倉 明 浩

後援会会員の皆様には、常日頃より本学の運営に對し多大なご尽力・ご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

平成29年4月は、滋賀大学にとり新たな展開への画期となりました。皆様ご承知のようにデータサイエンス学部が新設され、永く続いた彦根と大津に1学部ずつという体制から3学部、彦根キャンパスに2学部が並立することとなりました。

この新しい体制の下でも、教育・学生生活は基本的にはキャンパスごとに完結する、という形となっております。経済学部学生とデータサイエンス学部学生という専門領域を異にする学生たちが、教養教育や課外活動においては一体として学習・活動していくこととなります。後援会につきましても、両学部学生のご家族・関係者の皆様に共にご支援いただき運営していただいているところ

です。

新学部データサイエンス学部につきましては、目下の国の成長戦略にも関わる分野でもあり、日本で初めて大学教育においてその分野に焦点をあてた教育を行う学部の創設として、本学の取組みは社会から広く注目を集めております。この状況は、経済学部、そして何より経済学部の

学生諸君にとりましても好機です。入試状況・就職状況、どちらを見ましても、経済学部の定員削減による新学部の創設は、目下のところ社会からプラスの評価を受けていることが伺えます。この好機を活かすべく、経済学部といたしましては、これまで

の伝統を基盤として、経済・経営・社会分野での教育・研究をしつかりと維持・発展させていくことと同時に、データサイエンス学部新設という大学の展開を、自らの新たな強み・特長として活かすべく教育体系の再構成を行っているところです。

具体的には、教養教育や課外活動にはとどまらない、専門教育におけるデータサイエンス学部との連携の構築を目指しています。ビジネス、行政における課題の発見と解決方法探究、さらにはイノベーションの創出にあって、有効なアプローチとしてデータサイエンスが注目を集め、そのような知識・技能・センスを有する人材へのニーズが高まっていることは、皆様ご存知かと思えます。

経済学部教育にデータサイエンスの学びを取り入れ連携していくことは、このような現代社会のニーズに
応えることでもあります。(データサイエンス学部でも同様の考え方から、3年次にファイナンスやマーケティング等の経済・経営系の授業と実践演習が組み込まれています。)

経済学部では、データサイエンスの入門レベルの教養科目、専門基礎レベルの科目を経済学部生が履修可能な規程にしていると同時に、データサイエンス学部の協力を得て、パッケージとしての学習モデル科目群(データサイエンス学部の科目)を設定しました。これを「政策・ビ



ジネス革新創出人材プログラム(図)と呼んでいきます。このプログラムに参加しようとする学生は、オリエンテーションに従って1年次からデータサイエンスの学習を段階を踏んで学習を開始し、そのパフォーマンスによって2年次後半にプログラム生として選抜されます。経済学部での各自の専攻(経済政策、ファイナンス、経営学、会計学、社会分析)に加えて、さらにデータサイエンスの学習も進めま



データサイエンス学部長

竹村彰通

本学部に新入生を迎え入れてから既に半年が経ちました。本学

データサイエンス学部の 実践的な教育、特に工場 見学について

遂はできないかもしれないかもしれませんが、完遂した学生は大きな付加価値を有する人材として社会に飛躍していくことになると思います。

また大学院レベルでも、経済学研究科にデータサイエンス履修モデルを平成29年4月から設定しました。データ分析力を有する高度専門職業人（ビジネス人材、公共人材）の育成が狙いです。

このように、新学部設置を好機として、これまでの伝統を基盤として継承しつつ、彦根キャンパスの利用学部間の連携により、他の国公私立大学にはない強みと特長を有する経済学部として21世紀においても引き続き存在感のある経済学部としての発展を目指していきます。今後ともどうぞご支援を賜りますようお願いいたします。

では実践的な講義や演習を重視しており、春学期の「プレゼンテーション論」では学生が実際にプレゼンテーションを行うを行いました。また外部講師による特別講義も行いました。

例えば、日本IBM株式会より講師を招き、IBMの最新の計算機環境を体験しました。

また、秋学期直前の9月最終週に工場見学を実施しました。以下の4社にご協力いただき、学生は一つの工場を見学しました。どの工場も複数の教員が引率しましたが、そのうち1名の教員からの報告を紹介いたします。

1. GSユアサ本社（京都市）

9月26日（火）午後

最初に、GSユアサから簡単な挨拶と会社紹介があり、その後、工場と広報用展示室の2か所を、2グループに分かれて見学しました。

工場では鉛蓄電池製造工程、充電工程の2棟を見学しました。鉛蓄電池は主にフォークリフト用の大きめのサイズのもので生産されています。各製造工程はCAMにより自動化が進んでいますが、ケースへの設置や端子の取付け等は工員の人達が担当していました。多くの工程があり、設備面も含めて、高度成長期の工場の雰囲気が残っていました。また、品質や工程に関する各種データのモニタリングの様子や、データ分析による改良結果の展示がありました。

充電工程棟では、生産されたりチ

ウム電池や宇宙用、深海用にカスタマイズされた特殊な電池等の紹介を受けました。（齋藤教授）

2. 東レエンジニアリング瀬田工場（大津市）9月27日（水）午前・午後

工場見学は、午前午後とも同様の内容で3部構成でした。最初に、会社概要の説明をしていただきました。具体的には、東レが、高機能繊維、炭素繊維、プラスチックケミカル、各種フィルム等を製造している化学メーカーであること、これらの製造品利用用途について紹介いただきました。

続いて、工場内の見学では、内視鏡装置の実物の紹介に加え、実際に動かしてその利便性を説明いただきました。その後、高精度な半導体製造に関する説明のち、液晶の塗布及び膜厚のムラ検査のラインを見学しました。

最後に、実際に扱っているビッグデータとその活用事例を紹介いた



東レエンジニアリング工場見学
午前の部の集合写真

き、その後簡単な実データ（発電量データ）をグラフでみせていただきました。また、本学部との連携も紹介されました。（姫野准教授）

3. 村田製作所八日市事業所（東近江市）9月28日（木）午後

この工場では、電子機器における電気信号に混入するノイズを除去するためのEMI除去フィルタと呼ばれるチップを製造しています。村田製作所で制作しているフィルタは世界で半分近くのシェアを誇っています。このフィルタは小さいものでは0.2mm×0.4mmのサイズで、その細かい精密な製品を製造するための工程を、順を追って見学しました。

その製造工程では、製品が不良でないかをチェックするためのデータが計測されています。このデータを分析し、不良率を下げるための取組が行われています。学生達にとって、「生きた」データが取得される現場を見る良い機会になりました。（松井准教授）

4. 積水化学工業株式会社滋賀栗東工場（栗東市）9月29日（金）午後

この工場では、プラスチックを成形して、水道管等に使われる塩ビ管や継手、鉄道に使われるプラスチック製まくら木等を生産しています。東日本大震災等でプラスチックの水道管が地震に強いことが実証され、注目を集めています。

実際の生産現場では、各種センサーを駆使して少ない人員で生産管理を行っている状況を見学しまし

学生生活

た。また、製品開発にあたっては実験計画によりプラスチック成形時の温度や機械で押し出す圧力等を様々に変えてデータ分析を行っていること、品質管理においては従来からの抜き取り検査による管理から各種センサーの値をきめ細かくモニターする管理に代わってきていること等、データサイエンスが工場で活用されている状況を見学しました。(高田教授)

学長サロンを開催しました

今年度より、学生からの率直な意見、考え方、要望、情報の共有等の他諸々について、学長と学生が直接会話できる場として、「学長サロン」を開設しました。

この「学長サロン」は、原則月1



学長との懇談の様子 (第1回)

回程度を彦根キャンパス又は大津キャンパスで開催されます。

彦根キャンパスにて、第1回学長サロンが8月8日(火)に開催され、経済学部の学生4名が参加し、学生からは授業に関する事、留学生との交流に関する事、留学に関する事等々の意見・要望がありました。

また、第3回学長サロンは、10月19日(木)に開催され、経済学部の学生4名が参加し、学生からは学生生活に関する要望、授業に関する要望・意見等がありました。

両日ともに、学生諸君は緊張しながらも貴重な体験、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

(第2回は、9月22日(金) 大津キャンパスにて開催)

平成29年度滋賀大学学長賞授与式

6月3日(土)に平成29年度滋賀大学学長賞授与式が行われました。

滋賀大学学長賞とは、①「極めて優秀な学業成績を挙げ、高い評価を受けた学生」、②「課外活動や、文化・社会活動などで特に顕著な成果・功績のあった学生・団体」を表彰するもので、本年度で22回目となりました。

授与式では、喜名副学長より選考結果の概要について説明があり、位田学長から受賞者に表彰状と楯、副賞が授与されました。いずれも滋賀大学の名誉を大いに高めた功績を称えられました。各受賞団体等と受賞理由について



受賞を受けた学生の皆さん
(喜名理事(中央左)、学長(中央右))

は以下の通りです。(彦根キャンパスの学生関係のみ)

経済学部 桐野 葵

公共団体等(全国アマチュア学生コンクール、全国ピアノ指導者協会、岐阜ピアノコンクール)において表彰

証券アナリスト研究会

証券アナリスト第2次レベル試験において複数の者が合格

ウインドサーフィン部 吹田直紀

ジャパンカップにおいて総合12位。世界選手権出場支援選手に選抜。

第52回滋賀二大大学学長杯争奪総合定期戦を開催しました

6月24日(土)、25日(日)を中心に第52回滋賀大学・和歌山大学二大大学学長杯争奪総合定期戦を開催しました。

第52回滋賀二大大学学長杯争奪総合定期戦を開催しました

今年度は和歌山大学が当番とな

り、主に和歌山大学キャンパス内で熱戦が繰り広げられました。

本定期戦は、昭和41年にスタートし、今年で52回目を数える伝統ある定期戦で、20数種目に亘る総合的な対抗戦は全国的に珍しいものです。

開会式では、本学の位田学長が祝辞、和歌山大学の瀧学長が式辞を述べられ、その後、両大学団長である本学の喜名副学長、和歌山大学の石塚副学長より激励の言葉が送られました。

1日目から和歌山大学が各競技において勝利を重ね、2日目に本学が追い上げを見せるも及ばず、



ラグビー競技の様子

和歌山大学の3年連続総合優勝という残念な結果となりました。

閉会式では、お互いの健闘を称えあい、来年以降もこの伝統ある定期戦を盛り上げていくこととし、両校の更なる交流を確認しました。

(通算成績は本学の31勝18敗3引分け)

国際交流

留学体験記

◆交換留学
ミシガン大学ディアボーン校（アメリカ）

経済学部
経済学科3回生 長村 真帆

アメリカのミシガン大学ディアボーン校に交換留学しました。留学した理由は2つあります。1つ目は海外大学院進学に向けた英語力向上と海外生活の下見です。2つ目は純粹に高校生の頃から抱いていた留学の夢を実現することです。

ディアボーンはムスリムが比較的多い地域だったので、トランプ氏が出馬していた大統領選挙は注目されており、留学中の秋学期の話題は選挙のことばかりでした。経済学の観点でどちらが大統領になるべきか、開票中に円高が進んでいるのは何故かなどの質問を受け、多くの学生とアメリカの政治についても議論することが多かったです。

大学では、最初の学期は語学力が足りず、英語しか受講できず悔しい思いをしました。しかし、2学期目からは、経営学・経済学・人類学の授業を受講しました。正規授業に参加した時は、留学して良かったと心から思える瞬間になりました。特

に、経営学でのグループワークでは、深夜まで学生と討論を重ね、貴重な体験を積むことができました。現地では他国からの留学生やアメリカ人と同室で、一日たりとも退屈な日を送ることがありませんでした。特に台湾からの留学生とは、ジムに一緒に行ったり、料理を教え合ったりし、濃い時間を共有することができました。現在も国境を越えて友好関係を維持しています。

初めての海外生活は不安な事ばかりでしたが、必ず誰かが助けてくれました。私だけ学生登録できていないと色々な部署にたらい回しにされたり、荷物が届かなかつたり、日本



ミシガンスタジアムで友人と

では考えられないような事にも遭遇しました。しかし、思い返すと、自ら対応することを通じて、トラブルを含めた全てが自分にとって宝物となっています。

最後になりましたが、教授、家族、サポートして頂いた多くの人たちに感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

◆短期海外研修
イギリス研修（リーズトリニティ大学）

経済学部
企業経営学科2回生 北口 翔

3週間の研修期間は非常に充実し、実に学びのあるものでした。私がイギリス研修から得たものを3つ挙げると、ナショナルリテイの実感、学習意欲の刺激、多角的な視点から見る姿勢の3点です。

イギリスに限らず、海外に行くとなショナルリテイの存在を強く感じました。例えば、日本人は礼儀正しい、イギリス人はジェントルマンだ、というようなものです。海外では自らもそのような行動することが多いと思います。そのため、日本人であることを実感するとともに日本を客観的に見ることができました。

この研修は、学習意欲の刺激にもつながりました。プログラムでは英語のみの授業が実施され、これにより現在のレベルを知ることやコミュニケーションスキルの向上につながりました。しかし、私にとって真に学習意欲を刺激したのは他の学生と一緒に授業を受け、エクスカージョンに行き、そして授業時間以外の時間を過ごしたことです。他の学生の英語能力を知ることが自分にとって良い刺激になり、一緒に時間を過ごすことは互いのことをよく知る良い機会でした。そして、日本に帰っても学習のモチベーションになっています。また、大英博物館の展示物に

は歴史的な背景や争いがあることを知れたのはイギリスで大英博物館を訪れ、それにまつわる話をイギリス人から直接聞いたことによるものだと思います。この研修を通して、



修了式にて

様々な物事を多角的な視点から見る姿勢を持つことにつながりました。最後に、私がイギリス研修に参加することで得たものは大きいと思っています。これからもこの会得物を大切にしていきたいと思います。

平成28年度の主な留学先

国名	大学名	留学者数
アメリカ合衆国	ミシガン州立大学連合	10(7)
オーストラリア	ディーキン大学	4(3)
メキシコ	グアナファト大学	12(10)
中国	東北財経大学	6(5)
韓国	啓明大学	3(1)
タイ	チェンマイ大学等	17(16)
ノルウェー	ブスケルード・ベストフォールド大学	1(0)
オランダ	ソイド大学	3(0)
台湾	國立高雄大学	1(0)

※経済学部生を掲載、()は短期研修者数で内数。
※平成29年度よりイギリス研修を実施。

ゼミナール紹介

☆経済学部ゼミナールとは

通常ゼミナール、略して「ゼミ」と呼んでいる授業は、「演習Ⅰ～Ⅳ」といった一連の4つの授業科目を意味し、これらの科目は、2回生の後半に各学生の選択希望に基づき、受講クラスが決定されます。3回生春学期から授業が始まり、以後継続して4回生秋学期までの4セメスター連続して履修することになります。

「ゼミ」では、各教員がクラスを受け持ち、2年間、同一のクラスで同一の教員が、担当の専門分野の学問的内容について受講生の学習、研究を指導することになっています。

ゼミは少人数教育の授業科目ですが、クラスでの研究報告、発表を担当することで主体的な学力とプレゼン能力が養われます。また、クラス内での議論や共同研究、報告の準備作業、ゼミ生間の日常の交流などを通じて、論理面だけでなく総合的なコミュニケーション能力や人間関係を形成する力も培われます。それゆえ、ゼミは大学4年間の後半に配置されている主要な授業科目であり、専門教育としてだけでなく、ゼミ担当教員が学生生活や進路の相談、指導を行うことで、学生指導の面からも総合的に重要な役割を果たしています。

佐野ゼミナール

准教授 佐野 洋史

私は6年前に本学へ着任し、2013年度から3・4回生のゼミを担当しています。今年の3回生が、ゼミの5期生となります。私のゼミでは、医療、介護、年金、育児、生活保護、雇用といった社会保障について学習・研究しています。ゼミを担当する前は、若くて元気な大学生にとって、社会保障は縁遠くて関心のないものであり、私のゼミを希望する学生はあまりいないだろうと思っていました。しかし、毎年大勢の学生が私のゼミに参加し、2年間社会保障に関する専門的な学習に励んでくれています。

3回生のゼミでは、グループ研究に多くの時間を使います。その成果は、多くの大学の経済学・経営学系ゼミが参加する日本学生経済ゼミナールの研究発表大会で発表されます。4回生のゼミでは、グループ研究で培ったノウハウを活かして個人研究を行い、卒業論文を作成します。その他、3・4回生合同で、工場見学やゼミ合宿などを行っています。

私は本学へ着任する前は厚生労働省関連の研究所に勤務しており、常勤教員として大学で働くのは本学が初めてでした。当初、ゼミで何をすれば良いのかがわからなかったの

で、ゼミ生に「皆の意見を尊重するゼミだから」と体よく伝えて、学生から出た意見をそのままゼミの活動内容に取り入れてきました。グループ研究の発表大会への参加や、工場見学、ゼミ合宿は、全て学生が発案



ゼミ合宿の様子

したものです。結果的に、全て取り入れて良かったと思える内容ばかりなので、自分はゼミ生に恵まれているな、ラッキーだったなど実感しています。

グループ研究では、私があまり指示を出さなくても、どのグループもメンバーで協議しながらその内容にまで仕上げることができま

ある」と言いながらついに熱が入り、研究の質がもう一段上の水準になるような様々な修正を要求してしまいました。高い水準を求めすぎたかなと後から思うこともあるのですが、毎年度のグループもしっかりと研究内容を修正し、私の予想を上回る水準にまで仕上げることに驚かされます。

就職活動では、当初、民間企業での就職経験のない自分が学生の進路指導なんてどうすれば良いのかと心配していたのですが、全くの取り越し苦労でした。私が大した指導や助



ゼミでの活発な議論の様子

言をしなくても、皆自分達の努力で立派な進路を獲得してくれます。そして、学生生活最後の集大成としてゼミ生がしっかりとした内容の卒業論文を完成させるのを見ると、こ

からも達成感を得て嬉しくなります。いずれのゼミ活動においても学生主体で私はあまり役立っていないかもしれないませんが、この2年間を通して学生の思考力や理解力、プレゼン能力などの向上に貢献できることに、大変やりがいを感じています。今後も学生が楽しくかつ真面目に取り組みめるようなゼミ活動を行っていきたいと思います。

データサイエンス学部 特別ゼミ

准教授 清水 昌 平

経済学部ではゼミナールは3回生から始まります。データサイエンス学部でも同様です。ただ、データサイエンス学部は、データサイエンスを専門に学ぶための日本初の学部として2017年4月に誕生したばかりです。そのため、公式なゼミナールはまだありません。しかし、学生諸君は1期生として、学習に非常に意欲的です。そこで、特別ゼミとして、希望者による自主的な勉強会を行っています。数年して4学年全てが揃う頃には日程上実施が難しいため、まさに1期生ならではの体験になるはずです。春学期がスタートして、学生のみなさんも少しずつ大学生活に慣れてきたと思われる6月

頃、次のようなメールを、大学授業支援システムであるSUCCESSを通じて1期生のみなさんに送りました。『データサイエンス学部1期生のみなさん

入学して2ヶ月、基礎的なことを学ぶ授業が続いています。基礎的なことを学ぶことはとても大切です。ですが、もっと深く学びたいという欲求を抑えられない人もいることでしょう。

そこで、データサイエンス学部の教員の何人かで、次のような、それぞれの教員の専門領域を学ぶための特別ゼミを企画しました。

(以下、特別ゼミの紹介が入りますが、ここでは省略します。)

参加を希望する学生はそれぞれの教員へメールを送ってください。

締切：6月8日(木曜日) 13時

また、特別ゼミに関する質問があれば、それぞれの教員へメールを送ったり、直接話を聞いたりしてください。この特別ゼミは、公式の授業ではないので単位にはなりません。また、教員のボランティアで運営されるものです。1期生であるみなさんが3回生になるまで、データサイエンス学部には公式なゼミは存在しません。この特別ゼミは、3回生で公式なゼミを選択する前に研究会です。興味のある人は、ぜひ活用してください。』

当初は、非公式で単位にもなりま

せんから、実際に学生が集まるのか正直わからなかったのですが、結果的には70名程度の学生がいくつかの特別ゼミに参加しました。「やはり1期生は違いますね」と教員の間で話題になりました。

その中で、私の特別ゼミは、因果探索と呼ばれる機械学習技術に関する勉強会です。輪講形式で行っています。次のような趣旨を学生に伝え、学生に準備をしてもらい、参加



一期生の様子はこちらからもご覧になれます

<https://youtu.be/E8EIH0uNAHg>

者に説明してもらっています。「本を読むときというのは、わからないことがあれば、本やインターネットを使って調べます。そして、要はどいうことかと考えながら読みます。しかし、長い本になると、読む

のは時間的にも精神的にも大変です。そこで、何人かで分担して、1冊の本を読みます。発表者は、調べたり要約したりする作業を代わりにして、他の参加者があたかも自分で行ったかのような効果が出るようにします。何人かで教えあう効果も、もちろんあります。」そして、その際の留意事項として、①レジュメと呼ばれるメモを作って、ホワイトボードを適宜使って発表すること。②レジュメの要件としては、文章で書くこと。図や表も適宜用いること。③教員に理解させるのではなく、同期の学生に理解させること。④時間は30分で説明して、残り最大15分を質疑とします。⑤発表者以外にも本は読んで来ること。そのとき、わからなかったところをメモし、勉強会で質問すること、を伝えました。

当初は、学生同士で質問したり議論したりすることは少なかったのですが、回を重ねるごとに学生同士のやりとりが増え、少しずつゼミとしての効果を発揮するようになって来ています。1期生であることは、1つの学部で一度しかできない特別な体験であると思います。データサイエンスを学ぶという現在の意欲をそのまま維持、あるいはさらに高め、卒業後には、データサイエンス学部の育成人材像である「データから価値を創造する人材」として活躍してほしいと思います。

資格取得等報奨制度について

「滋賀大学経済学部後援会資格取得等報奨制度」は、平成26年10月に創設され、日頃の学生諸君の勉学等を支援し、資質の向上を目的とするもので、サポート対象基準を満たすことによりその功績を称え報奨金給付するものであります。

第4回目(平成28年4月～29年3月)については、下表の通り、53件に対して給付されました。学生からはステップアップのための資金にしたいとの頼もしい声が聴かれ、今後も、多くの学生諸君から応募していただけるよう願っています。

また、学生諸君には、別途、学内においてお知らせしていますが、保護者の皆さまにおかれましても、ご覧いただいた上で、お子様にお伝えいただきたく存じます。

今後、より良き制度に改善して行きたいと考えておりますので、会員の皆さまから是非ともご意見等お寄せいただければ幸いです。

【お問い合わせ】
滋賀大学経済学部・データサイエンス学部共通事務部総務係

TEL 0749-27-1030

平成29年度滋賀大学経済学部後援会資格取得等報奨制度給付一覧
(平成28年4月～平成29年3月末日までの受理分)

分類	サポート対象事項	基準	報奨額	給付件数	給付者氏名(敬称略) ○数字は回生(申請時)
資格・認定試験	税理士試験	「簿記論」、「財務諸表論」 いずれかに合格	80,000		
		「消費税法」合格	50,000		
	公認会計士試験	短答式試験合格	100,000	1	橋本凌太(学部④)
	日商簿記検定試験	1級合格	50,000	1	橋本凌太(学部④)
	証券アナリスト試験	第1次レベル試験合格	30,000	9	森田 匠(学部③) 内田智也(学部④) 松下健太郎(学部④) 内藤 樹(学部②) 小澤翔伍(学部②) 長谷川拓実(学部②) 上野奈菜(学部③) 他2名
		第2次レベル試験合格	40,000	4	平賀淳太郎(学部③) 入江将大(学部③) 石田冬也(学部③) 他1名
	データベーススペシャリスト試験	合格	50,000		
品質管理検定	1級合格	50,000			
統計検定「一級」	「統計数理」、「統計応用」 のいずれか1科目合格	50,000			
語学試験	TOEIC(公開テスト)	800点以上	30,000	33	古池康彰(学部④) 梅田凌太(学部④) 鳥羽悠珠(学部③) 小倉早央里(学部④) 阪根修太郎(学部③) 藤井海斗(学部③) 重松里奈実(学部③) 上小澤圭那(学部④) 松下健太郎(学部④) 北川雄基(学部④) 佐伯日南子(学部④) 掛川雄太(学部③) 本田健人(学部④) 清水貴淑(学部④) 飯島彰子(学部④) 片山大二郎(学部④) 神取宗樹(学部④) 反橋亮太(学部③) 福山恭健(学部④) 青山日向子(学部③) 伊藤友加(学部④) 楠井大介(学部③) 柴田周弥(学部④) 中村夏美(学部④) 宇佐美蓮(学部②) 伊集院蝶子(学部③) 浅井 鷹(学部④) 田端成将(学部④) 葛城 武(学部④) 他4名
留 学	本学交換留学制度に基づく海外留学	アジア圏地域	40,000		
		その他の地域	80,000	1	
その他	中小企業診断士試験	第1次合格	50,000	1	橋本凌太(学部④)
	ウインドサーフィン世界選手権 「Techno 293 World Championship」に出場		70,000	1	山本春馬(学部④)
	「学生による滋賀県的女子旅コンテスト」優良賞		50,000	1	藤井彩奈(学部③)
	第40回全日本都市対抗テニス大会(団体)第2位、第60回全日本学生テニス選手権大会及び第53回全日本学生室内テニス選手権大会出場		50,000	1	松村明香(学部④)

- 注) ①給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。
 ②「資格・認定試験」については、同一基準での申請は、学部及び大学院在籍期間中を通じ、1回限りとする。ただし、税理士試験については、基準①、②のいずれか1回限りとする。
 ③「語学試験」については、同一言語での申請は、学部及び大学院在籍期間中を通じ、1回限りとする。また、試験言語を、母語とする者は申請できない。
 ④編入学試験又は帰国子女入試等で学部に入学者及び外国人留学生が、語学試験で申請する場合は、事前に問い合わせることとする。
 ⑤後援会費を入学年度の9月末日までに納入していない場合は対象としない。
 ⑥報奨額については、経済学部後援会委員会の議を経て調整することができる。
 ⑦本ガイドラインの改廃は、経済学部後援会委員会の議を経て決定する。

報奨金給付者の声

☆ 資格取得等報奨制度により 今回給付となった資格・試験

『証券アナリスト試験』

『証券アナリスト試験』は、証券投資の分野において高度の専門知識と分析技術を応用し、各種情報の分析と投資価値の評価を行い、投資助言や投資管理サービスを提供するプロフェッショナルとしての認定を行うもので、第1次レベル(3科目)及び第2次レベル(4科目)の2段階選抜試験です。

『TOEICテスト』

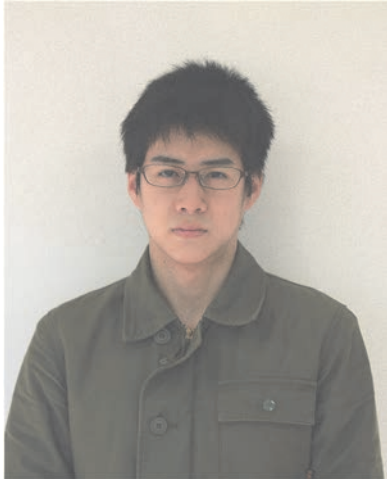
『TOEIC(トイーック)』とは、Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。

可否でなくスコア(10点〜990点)で評価され、世界約150カ国で実施されています。

『証券アナリスト試験 第2次レベル試験合格』

経済学部ファイナンス学科4回生

入江 将大



私は、昨年の6月に証券アナリスト資格第2次レベル試験に合格しました。合格できた主な要因は、関連講義と楠田ゼミを受講し、証券アナリスト研究会というサークルに参加することで、組織的な支援を受けることができたということだと思います。資格取得にあたって苦労したことは2点あります。1点目は、資格の内容が金融市場全般に関わるものとなっており、学生の私にとって馴染みのないものだったということ。

未知の用語や仕組みだらけの世界で、1度の勉強ではなんとなく理解できず、2度3度と回数を重ねることによって少しずつ理解を深めていきました。

2点目は、合格までの道のりが長く、モチベーションの維持が難しかったことです。知識の積み重ねが必要とされるこの資格では、継続的に学習することが重要となってきました。

しかし、約2年間もの間やる気を維持するのは困難で、勉強をやめてしまいたい時期がありました。そんな時でも、同じく試験合格を目指している研究会の仲間が存在が心の支えとなり、途中で諦めずに勉強を続けることができました。

証券アナリスト試験合格といっても、まだまだ知らないことだらけです。今後は語学の勉強も合わせて行い、仕事に活用できるように精進したいと思います。

『TOEICテスト 915点』

経済学部社会学部システム学科4回生

北川 雄基

私は昨年受験したTOEICで、915点の成績をいただきました。2学期間にわたるアメリカでの交換留学と自主学習を経ての結果です。

私はかつて英語が格段好きだったわけでもなく、むしろ高校時代においては苦手科目の1つでした。転機は2回生の冬に経験した、滋賀大学が提供している海外研修プログラムの中の1つ、オーストラリア研究でした。様々な国の人々と知り合い、親密になる楽しさに心惹かれると同時に感じたものは、自分の英語の拙さ

でした。その後、私は交換留学をすることに決め、そのために求められる英語の基準を満たすために自主学習を重ねました。その後アメリカに渡り、日本人が全くいない大学で2学期間勉強しました。帰国後も滋賀大学の近くにあるアメリカ人学生のための語学学校を定期的に訪れるこ



とで英語力の維持を図って、TOEICの点数取得に至りました。まだまだ流暢な英語には程遠いですが、今後ますます学習に力を入れていきたいと思っています。

これから英語をはじめとする外国語の学習を考えておられる方においては、外国語の習得のみを目標とするのではなく、それを使ってできることを目標として勉強されると学習意欲を維持しやすいのではないかと思います。